

伊予市

じんけん教育

2007
No. 4

一人一人の人権が尊重される、明るい伊予市をめざして

編集・発行／愛媛県人権教育協議会伊予市支部・伊予市教育委員会（〒799-3113 伊予市米湊768番地2 ☎089-982-5155）



じょうず じょうず!

こうやってするの?

ひまわり祭りの準備

平成十七年九月に「あさひ保育所」と「ふたば保育所」が統合され、「ぐんちゅう保育所」がスタートしました。
保育所には、0歳から就学前までの子どもたちが過ごしています。ゆったりとした保育室で子どもたちは異年齢の交流を図りながら、泣いたり、笑ったり、けんかをしたりと、日々ドラマが繰り広げられています。

子どもたちの心をはぐくむ

—地域に支えられたふれあい保育を通して—

ぐんちゅう保育所



う~ん! とれないよ

もうちょっとだよ

おじいちゃん、おばあちゃんと楽しく

ます。その中で、友達の思いに気づいたり、自分の気持ちを主張したりしながら、人間関係を広げ、社会性の基礎を培っています。
また、様々な地域の方とふれあう中で、自分の周りの人たちにも関心を持つていきます。
今年度は、伊予農業高校のお兄さん、お姉さんとひまわり祭りや米作りをしました。近隣のデイサービス



すごい たねがいっぱい ニュルニュルするよ

ハロウィンパーティーで

のおじいちゃん、おばあちゃんたちと昔の遊び等を教えてもらいながら交流をしました。また、外国の文化を知るために、園児の保護者であるエリックさんとのハロウィーンパーティーをして、外国のことも体験しました。
このような様々な活動を通して、子どもたちは愛情や信頼感を感じ取ることができました。
今後も様々なふれあいを体験させながら、命の大切さを知り、人に対する思いやりの気持ちをはぐくみ、人権を大切に育てていきたいと思います。

人権・同和教育への取組

—日々の活動を通して—

伊予市立港南中学校

港南中学校では、「敬愛・克己・誠実」の校訓のもと、互いに認め合い、支え合い、戒め合うことができる集団づくりを目指し、人権・同和教育や港南人権フェスタ、人権標語や作文・ポスターの作成などの実践を通して、差別の解消に向けて日々取り組んでいます。

また、「人権・同和教育推進月間」を年二回（六月・十一月）設定して、人権学習や同和教育問題に視点を置いた授業や活動を、道徳や学級活動の時間等に重点的に展開しています。その中でも、正しい見方、考え方（科学的認識）が、生徒の発達段階に応じて身に付くように、学年別目標を設定することで、人権・同和教育に対する正しい認識を図り、「差別しない、差別に負けない、差別を許さない生徒」の育成に努めています。

港南人権フェスタ

本校では、人権・同和教育参観日を兼ねた港南人権フェスタを実施し、保護者への啓発活動も行っています。また、この行事は、生徒たちの人権感覚を磨き、差別解消に向けて、具体的な行動を起こすことができる生徒を育成することを目指した生徒会主催の集会活動でもあり、毎年十一月に開催しています。

生徒たちは、保護者や地域の方々の前で、差別を許さない心情や差別を解消していこうとする心の叫びを、港南中人権宣言（本校オリジナルの人権宣言）の全校唱和や啓発標語・人権劇の発表などを通して具体的に表現することができました。

その中でも、人権劇においては、命の尊さを主題に書き下ろされた人権啓発詩（高木あきこ作「石よこ」）を、現在深刻な問題になっている「いじめ」に焦点をあてながら舞台劇用に脚色し、本校オリジナルの人権劇として発表しました。具体的に表現していく場を設けたことで、命の大切さや人間の生き方について考えを深めることができたと思います。また、今回は、立場の違う人々の集まりの中で、自分の思いや考えを伝えたり、他者の意見から学び、行動に移せたりすることを目的として、人権劇を二部構成としました。そして、後半の部では、演じ手側からの投げかけを受けて、参加者全員による討論会を実施しました。司会を務めた生徒の機転の利いた問いかけもあって、生徒や教師はもちろんのこと、保護者からも貴重な意見を頂くことができました。特に、子どもをもつ一人の親として、我が子が、「いじめ」を受けた時の悲しみや怒り・無念さを、涙混じりで語った本校職員の体験談は、参加者一人一人の心に強く響きました。



人権宣言の全校唱和

また、今年度は、PTAの方々の御協力も得て、有志による人権コンサートや人権標語の発表を取り入れることができました。

人権・同和教育の解決に向けて、家庭と学校が一体となった取組となったのではないかと思います。

今後の展望

人権・同和教育は、人権を守り尊重するという具体的な行動や態度を身につけていかなければなりません。その点で言えば、人権・同和教育は、日々学校で展開する活動の中で、計画され意図されたカリキュラムを越えて、生徒たちが自主的に学び、身につけていくことが真の問題解決につながると思われます。それ故に、人間としての生き方についての自覚を深め、自己の能力を伸ばせるような指導・助言をし、生徒が差別解消に向けて行動を起こすことのできる力を身につけていくよう、今後も支援していきたいと思えます。

記念講演

演題 「山下さんちの物語」

講師 宝井 琴桜さん

第8回 人権を考える市民の集い

2006(平成18)年11月3日(金) 伊予市市民会館

開会行事、人権啓発入選作品の表彰と作文発表を行いました。その後、講師 宝井琴桜さんの記念講演を聴きました。講師特有の流暢な語り口は、張扇の音とともに話のイメージを膨らませてくれました。



講談は、五〇〇年の歴史がある大衆演芸で、男性の話芸です。講談の世界に入門したいと思う私を、「女性は無理です。やめなさい」と、止められました。「他人さんがなぜそんなことを言うのかな」と、腹立たしく思いながらもあきらめず、入門しました。そして、三十八年が過ぎました。今は女性が半数を占め、入門を止めてくださった男性講師の皆さんと、時にはライバルとして、また、仲間として講談界活性化のために男女が協力してやっています。

表彰風景



人権・同和問



「男女共同参画が大事」と熱く語る 講師 宝井 琴桜さん

題は根が深いですね。人間は、生まれてくる時、親、ふるさとを選ぶことはできません。同じように、男女の性も選べません。にもかかわらず、男だから、女だからと言っ

ようなことがあつてはいけません。

大河ドラマ「功名が辻」の山内一豊さんと妻千代さんの話を少しします。亭主一豊さんは、困っていることがあつても口には出しません。しかし、千代さんは、第六感でこのことをお家の一大事だと察知し、知恵を出しました。そして、一豊さんを支えた内助の功は、今式に言えば、山内さんのお宅は、男女共同参画家庭だったと言えます。

「男女共同参画社会基本法」ができました。この法律は、「男女共同参画社会」の実現が、二十一世紀の我が国社会を決定する最重要課題として、位置づけています。男だからとか、女だからとかではなくて、男女が力を合わせて生きて行かなくてはなりません。大切なのは、男女の人権を大切にすることです。DV(家庭内暴力)やセクハラ(性的いやがらせ)は昔からありました。しかし、口にできなかったのです。この法律の第一条には、「人権尊重」をあげています。

私たちは、日常生活の中で、「これ、おかしいな。

不愉快だな」と、思えば、すぐに行動を起こさなければ、そのことは改善されません。夫に愚痴をいくら言っても、変わらないのだということを何回となく体験し、反省もしました。

山下さんちは、明るい積極的なおばあちゃん、専業主婦の茂子さん、定年退職をした克三さんがいます。行動的なおばあちゃんと茂子さんが、克三さんの行動に積極性と社会に前向きにかかわっていくとする広い心を育てていきました。人間は、社会の中で生きていくのですから、自分の力を社会に発揮していくことが大切です。發揮の仕方、人に言われてするのは「参加」です。人に指図されなくても、自分で考えて行動する姿が「参画」です。

「参加」と「参画」とは違います。今後は、子育てや介護を「参画」の場にしなければなりません。高齢化が進んでいます。それは、介護を受ける側だけでなく、介護をする者が高齢化しています。加えて、介護が長期化、重度化、複数化、遠距離化しています。今後は、一人が三〜四人の介護をするようになるでしょう。人生五十年と言われていた時代には問題にならなかったことが、今は起こっています。社会全体で支えていくことが大事になります。皆さん、共同参画社会の中で、役割分担をし、みんなが楽しく生活できる地域社会をつくっていきましょう。お互いが参画することの大切さを認識し、支え合っていくことではありませんか。



三十八年間の講師の仕事の中で、見つめ、考えてきた人権問題や介護問題について、幅広い話題や考え方を示していただきました。これからの地域社会をつくるために大変参考になったすばらしい講演でした。

第58回 全国人権・同和教育研究大会

みどりの山 あおい海 愛媛から発する人権文化



開会行事の風景 愛媛県武道館

研究大会に参加して(参加者の感想)

二〇〇六(平成十八)年十一月
二日(土)・三日(日) 松山市

二十年ぶりに、全国各地から多くの人々を迎え、松山市で研究大会が開催されました。伊予市からも多数参加して、研修しました。分科会では北山崎小学校教諭森岡郁雄さんが充実した実践報告を行い、好評でした。

今回の研修を生かし、人権・同和教育の解決に努力したいと思います。本紙面にて、参加者から届けられた感想文の一部を紹介いたします。



▼ 大会での実践報告や討議を聞き、人権・同和教育に対する理解が深まりました。分科会で、「自分と家族」をテーマ

にこれまでの自分の生活をみつめることを一つの柱として取り組んだ話、不登校問題、同和教育の他の多くの問題も、子どもと親、子ども同士、子どもと教師、教師と親、このつながり

を作ることによって、個々の問題を少しずつ解決していることを学んだ。一人の人間として接する気持ちの大切さ、話しをする積極性、何回も足を運ぶ大切さ等、深い感動を覚えた。今後、結果を恐れず、あせらずコミュニケーションを大事にし、子どもの人権を大切にしていきたい。

▼ 北山崎小学校森岡教諭が発表する「生活課題と啓発活動」の分科会に参加した。地区別懇談会という形式をとる伊予市のやり方は特別なものではないが、一部の方々からは地域へ教師集団が出かける「同和教育」には関心を寄せる声があった。二日目は「人権確立をめざす教育の創造」の分科会に参加した。この日の発表で一番感じた事は、教師が自らを語らずして子どもたちの心はつかめないという事であった。長崎県の司会者も最後の総括討議の中で、再婚した両親のもとで育った少年期、また、教師となった今日までを語った。自らを語らずして人の心はつかめないというのが、今回の全同教での感想であった。

▼ 分科会は、「生活課題と啓発活動」に参加しました。地道な実践報告と活発な討議がなされ、鋭い角度からの質疑応答は、私の鈍った人権感覚を刺激しました。島根県の報告の中に「差別する心は空気のように自然に体の中に入ってくる。だから、いい空気をいっばい吸わせて育てないと」だれだつて差別の心は持っている。そこを向き合わんとね」という言葉が心に残りました。フロアから、「教育は、互いの信頼と尊敬の中で成り立つ。自分の本音が言い合える場を作り、子どもたちをつなげていくことが大事」という発言がありました。同和教育は特別な教育ではなく「人と人をつなぐ教育」であることを再確認することができました。

▼ 森岡教諭の発表に対して様々な意見があった。その中には、「教員の専門性から指導的立場にあるべきであり…」というような、発言もあった。立場や携わっている仕事、地域等によって様々な考え方があつたり、差別の現実に向かい解決に向けて努力してい



森岡教諭(北山崎小)の実践報告の様子



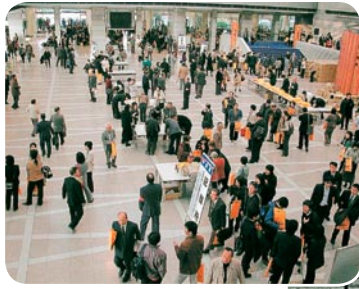
分科会風景 松山北高等学校

る方々の切実な思いを感じ取る事ができた。

いろいろな意見が出たが、すばらしい実践だという意見が圧倒的に多かった。私は、北山崎小学校の実践はすばらしいと思うとともに、同じような考え方で歩んでいきたいと考えている。自分も教師であるが、常に指導的立場であるとは、とても言えない。自分自身が学びつつ自分の思いを出し、保護者や地域からの声を聞き、しっかりと受け止めながら皆さんを積み、自分の考えを確かにしていきたい。人権・同和教育は、すべての人のためのものである。日頃からしっかりと意識を持ち、鈍感になることを防ぎ、今回の研修で学んだことを私なりの方法で伝えていきたい。

▼ 一日目は、「進路・学力保障」、二日目は「人権確立をめざす教育の創造」の各分科会に参加しました。熱心な討議を聞き、有意義な会でした。両分科会で共通して感じたことは、全国各地で、先生、職員、相談員、保護者等の皆さんが、日夜一体となり色々な問題や局面に真剣に、懸命に取り組んで成果をあげている姿です。すべてのことが思い通りにいかないこともあるとは思いますが、全国レベルの意識の高さ、教育指導力、実践力の高さが実感できました。この努力を継続すれば、必ず成果が上がっていくものと思います。自己啓発の機会をいただき感謝しています。

▼「いっしょにいるからこそ」のテーマの報告を聞いた。通常学級におけるダウン症のAさんと児童との交流に関するものだった。担任の教師平野さんは、子どもたちにAさんのありのままを受け止めさせることを意識し、関わったそうである。学級の保護者からの批判的な見方は全くなかった。Aさんによって心を耕すことができた子どもも数多くいた。このことからAさんが、自然な形で受け入れられていることが伝わってきた。Aさんの母親も発言され、就学前からの努力を語り、「一緒にいることの大切さ」を母親の気持ちからにじませていた。支え合う社会の大事さを強く感じた。



受付風景 県民文化会館



武道館前での参加者

▼全国の「熱い思い」に触れることができた。全同教は、自分に元気をくれ、自分を変えてくれると感じている。南予出身の自分は、宇和島の取組は知っていたが、それにしても三人による特別報告の発表はすごかった。構成もすっきりしていて完璧だった。内容も重かった。川口さん(報告者)の流した涙がそれを物語っていた。

(5) 習のリーダーになっていく、という内容だった。発表の中には結婚差別が見え隠れし、この問題の解決こそ

が部落解放の物差しなのだ改めて感じた。他県の「地区別懇談会」への取組報告があったが、形骸化の印象も受けた。

参加者の感想

▼「人権確立をめざす教育の創造」の分科会に参加しました。毎日何げなく生活している私にとって、この二日間の研修は、心に大きな衝撃を受けました。参加した分科会は、高校、中学校の事例で自分をとりまく環境とは違っていました。発表者の子どもと向き合う姿勢に感動しました。「自分を語る」「つながり合う」ことの大切さを強く感じました。話さなければ何も分からない。話すことで打ち解け、分かり合い、つながりあえる。当たり前のことですが、「語る」大切さがよく分かりました。職場でも、家庭でも、社会でも同じで、みんなが仲良くなれると思います。差別のない社会を作ることは簡単ではないけれども、みんなが語り合い、心がつながり合って、一つでも差別をなくし、明るい世の中になるといいなと思います。この教訓を生かし、真剣に、情熱的に活動しようと思いました。

▼「子ども会活動」の分科会に参加しました。愛南町の子ども会活動やこれからの取組についての報告が終わり意見交換になった時、一人の女性が、「今まで受けてきた差別」について、また、「これからどうすればよいのか?」という悩みを発表しました。島根、九州、高知、関西方面から参加された方々が、次々と意見を述べました。「私は地区の出身です」「地区に生まれてよかったです。温かい人たちに囲まれて幸せです。これからもう明るく前向きに考えて、生きていきます」と、笑顔で発言された人たちを見て、今まで偏見の目で見てたり、思いこみをしてきた私は間違っていたことに気づきました。差別することは醜く、愚かなこと決してしてはいけません。関心が薄かった私でしたが、考え方が変わりました。この全国大会の成果であると思います。小さな一歩が大きな一歩になるよう願います。

がら。

▼「人権確立をめざす教育の創造」の分科会に参加した。様々な立場からの報告を聞き、人権問題は一言では言い尽くせないものだった。「同和問題」に真正面から向き合っている教師と子どもたちの報告もあれば、「障害児」を中心に、ともに頑張つて築きあげた学級のきずなの報告等、子どもたち、教師、そして、保護者の意見も聞くことができた。また、民族問題、部落史学習に取り組んでいる教職員との報告、仲間づくりを目標に人権劇に取り組む生徒、教師の活動報告もあった。



分科会風景 味酒小学校

現在、身近な人権問題としては、「いじめ」や「体罰」が持ち上がってくる。個人の人権問題を重要視する中で、大衆の人権問題から逃避しているようにも思える。

我が校では、年に一度「地区別人権・同和教育懇談会」を実施している。指導される先生方も頑張つておられる。本年は、手紙形式の案内状を送った。PTAも協力した。このひと工夫で、参加者数も例年よりは増えた。永年続いているこの会を後退させないことが、人権問題解決への役割を果たすものと確信している。

第29回 伊予市人権・同和教育研究会

研究主題「同和問題解決への意欲や技能を身につけた児童の育成」

伊予市立翠小学校



全体会の様子

二〇〇六（平成十八）年十月二十七日（金）に伊予市人権・同和教育研究会を開催しました。翠小学校の研究主題は「同和問題の解決への意欲や技能、態度を身につけた児童の育成」です。人権・同和教育の中心課題は同和問題の解決であることを明示して取り組んでいます。

一年生は「さるとかに」という資料をもとに学習しました。この資料は、全国水平社の西光万吉が水平社の活動方針を問われ、それに答えた話が基にされているそうです。この学習をしてから、一年生の児童の中に、「いやなことがあっても泣き寝入りしてはいけないんだ」という意識が芽生えてきました。

二年生は、「きらいなものをすきと思えば」と題して、視点を交



3・4年生の授業

えればいろいろな考え方ができることを学びました。参観者から「新しい視点で授業に取り組んでいる」という感想をいただきました。

三・四年生は「みんな仲間」という資料をもとに話し合いました。運動が苦手な友達に対する偏見に気づき、相手のことを理解し助け合うことの大切さを学びました。

五・六年生は、郷土の先人武智哲郎さんの生き方に学びました。同和問題に真正面から取り組んだ武智哲郎さんの姿に子どもたちは共感し、差別解消のために自分ができるように取り組んでいくことを考えました。

授業後の全体会では、宇和島市立城東中学校教諭藤原和憲さんの講演がありました。人権・同和问题学習に取り組む教師の姿勢の大切さを学びました。その中で印象的だったのが、「自分を主語にした姿勢」です。差別をなくすのは外の誰でもなく、自分自身であるということです。これから私たちが、差別をなくする生き方をするのか、それとも差別を残す生き方をするのかを問われているのです。

熱意あふれる先生の語りに、参加者一同聞き入りました。

すべての差別をなくする 人権・同和教育の推進

郡中地域「地区別懇談会」

九月から十月にかけて郡中地域十一会場において、地区別人権・同和教育懇談会を開催しました。区長さん方のご努力で、年々参加者が増えていきます。

はじめは、人権・同和教育主任教師の指導で、「フォト・ランゲージ」という参加体験型学習を行いました。写真の一部を見て、どういった写真なのかグループで話し合います。人によってものの見方・感じ方の違いがあることを感じ取ることができました。

次に、人権啓発ビデオ「らくがき」を鑑賞しました。三人の子どもたちが卑劣な差別落書きに対して憤りを感じ、鋭い人権感覚を持って同和問題の解決に向け、熱心に取り組む姿が描かれていました。子どもたちが、自分の信念を大人たちに働きかける勇氣ある行動に感動を覚えました。

また、副題の「気づこう、学ぼう、取り組もう」が持つ意味を映画に重ね合わせ、これからの自分の生き方、人権教育の進め方を考えてみました。

講話では、小学校の人権・同和教育主任教

ワークシヨップ

大丈夫ですか？ 自分のマナー

みんなの住みよいまちを目指して



スーパーマーケットの駐車場で、写真のような「車いすマーク」のスペースに駐車し、母

と買い物にお店に入ろうとしました。すると、警備員さんに、「ここは、車いすの人のための駐車場ですから、あなた方は一般の駐車場に停めてください」と、注意されました。

母も私も車いすを使ってはいませんが、身体障害者手帳を所持しています。

次のことを考えてみましょう

- ① 警備員さんは、なぜ注意したのでしょうか。
- ② このことを、どう思いますか。
- ③ このマークは、何を意味するマークなのでしょうか。

※警備員さんは、「車いすマーク」は「車いすだけ」という意識を持っていたのでしよう。「体の調子が悪いのですか。」と、心配りのあるひと声をかけてあげると、よかったと思います。

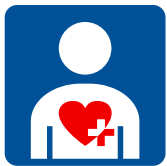
実社会では、各種マークが幅広く活用されています。いくつかのマークについて、そのマークが意図している内容を考えてみます。



駐車場などでよく見かける「車いすマーク」です。正式名称は「国際シンボルマーク」と言います。車いすの人はもちろん、体に障害のある人が利用することを意味しています。健常者はこの場所を使うべきではありません。また、車いすで利用できるトイレ等にも表示しています。



「クローバーマーク」です。このマークは、「身体障害者標識」で、道路交通法で定められています。このマークを付けた車は、何らかの身体的障害のある人が運転していることを意味し、周囲の者は安全運転に協力することが義務づけられています。十分な配慮が大事です。



「ハート・プラス・マーク」です。法律で定められた身体障害のうち、心臓、腎臓をはじめ六つの内臓障害がある人が使うマークです。外見には障害が分かりにくいために、誤解や差別を受けやすいのです。誤解や差別を防止する努力が大事です。

マークの意味を理解して、心くばりをしながら、人にやさしいまちづくりの推進に取り組みたいものです。

師や社会教育指導員が講師となり、伊予市で取り組んできた「身元調査おこしわり運動」の更なる推進を呼びかけたり、家庭における人権教育の重要性を訴えたりしました。

その後の話し合いで、「落書き」や「身元調査」は伊予市でも実際にありました。まずは、人権問題を身近なものと考え、関心を持つことが大事です。差別に「気づく」ことが「学び・実行する」ことにつながり、それが「地域の教育力」となるのです」と、参加者から意見をいただきました。

この懇談会は、身の周りには様々な人権問題について改めて考え直すよい機会となりました。「人権とは、人と人との関わりである」と言われているように、懇談会は地域ぐるみで行うところに意義があると思います。今後とも皆様のご協力をお願いいたします。



参加体験型学習 熱心に取り組む参加者

第21回 人権啓発標語入選作品

一人一人の人権が尊重される 明るい伊予市をめざして

多数の応募ありがとうございました。入選作品を紹介します。(敬称略)

応募数	小学校	181点
	中学校	63点
	高校	51点
	成人	131点
応募総数		426点

小学生の部

- おもいやり たくさんもって おもくない
北山崎小 1年 土居 夕華
- のぼりぼう みんなできょうそう たのしいな
南山崎小 1年 島川 樹
- ほくのゆめ みんながニコニコ できる町
北山崎小 2年 上本 拓郎
- 楽しいよ みんなとあそぶと 元気百ばい
佐礼谷小 2年 東地 真穂
- 楽しいな みんなのえがお 見ていると
中山小 3年 西岡 夏美
- もう一步 言えたらいいな その勇氣
北山崎小 3年 徳本 華乃
- ありがとう 勇氣をくれた その言葉
下灘小 4年 宇津 愛美
- つたえよう きみがもらった おもいやり
北山崎小 4年 長谷 奈緒
- 感じてください ころろのさけび
伊予小 4年 影浦 ちひろ
- 優しさが みんなをつつむ 私の街
翠小 5年 小畑 麻愛
- 見つけたよ きみのいいところ 大発見
伊予小 5年 山崎 航
- 一言で 心のとびら 開き出す
郡中小 5年 日野 未奈子
- 助け合う 心は人の 道しるべ
由並小 6年 亀岡 祐介
- あなたの手 きずなを深める 魔法のリボン
下灘小 6年 宇津 博美
- 僕と君 ちがうところが いいところ
伊予小 6年 小笠原 大寿
- 一人じゃない! だれかがずっと そばにいる
伊予小 6年 坪内 愛里

中学生の部

- 助け合う 友がいるから がんばれる
下灘中 1年 若松 沙保美
- その勇氣 未来の笑顔が 見えてくる
伊予中 1年 水口 志織
- やさしいえがお 心とからだ があったまる
港南中 1年 亀岡 みなみ
- あなたの手 私のころろ あたためる
上灘中 2年 泉 まい
- その笑顔 心の扉 開ける鍵
港南中 2年 門田 理沙
- 分かちあおう 一人一人の いいところ
中山中 2年 堀 悠介
- 「さあどうぞ」 ゆずるこの席 思いやり
下灘中 3年 嶮本 卓司
- 大丈夫 いつも仲間が そばにいる
伊予中 3年 仲神 千夏
- みんなに広かれ 明るい笑顔の エネルギー
港南中 3年 河野 美陽子

高校生の部

- 気遣いは 笑顔の花の 栄養素
伊予農業高校 1年 西永 夢佳
- 笑顔の輪 広げて築く 地域の輪
伊予農業高校 3年 尾崎 智春
- タンポポの 綿毛のように 優しい言葉
伊予農業高校 3年 大庭 詩穂

成人の部

- いたわり 思いやりのことば 言葉美人になりたいね
伊予市米湊 武智 冷子
- 思いやり あなたと私の 「愛ことば」
伊予市双海町両谷 高村 真理
- やってみよう! かける一言! 踏み出す一歩!
伊予市双海町両谷 高岡 聖子
- 差別の言葉 人の魂を 刺す刃
伊予市尾崎 橋本 千代
- 子どもらに 態度でみせる いい見本
伊予市尾崎 平岡 勇二
- 差別断つ! 輝くハートは みんなある
伊予市尾崎 曾我部 珠美
- 差別のつぼみ 開花は絶対 させません
伊予市尾崎 松下 美香
- 思いやる 心の基礎は 家庭から
伊予市中山町永木 植田 一彦
- 同じ目線で向き合って 本音で語る 暮らしと人権
伊予市中山町犬寄 高市 礼子
- 差別だと 騒ぐ大人が 差別の芽
伊予市中山町重藤 平野 和子
- いつもとね 変わらぬ笑顔に 救われる
伊予市大平 宮本 佳奈
- その笑顔 いいねいいね その笑顔
伊予市大平 前田 久美
- 人類愛 そう云う先生 問題児にそっぽ向き
伊予市大平 渡部 美香
- 家庭から 発信しようよ 優しい心
伊予市下唐川 岡山 君枝
- 私にとればこれくらい 相手にとれば 一生の傷
伊予市上野 細川 恵子
- 見よう 知ろう 気にしよう 差別をなくす第一歩
伊予市上野 阿部 香夏

『見過ごさないで 人の心を傷つける落書きを』